

日本アフリカ学会第61回学術大会プログラム(第1日目:2024年5月18日) ①

受付 (大阪大学箕面キャンパス 3階 南側エントランス)

| 9:00 | 受付 (大阪大学箕面キャンパス 3階 南側エントランス) | | | | |
|-------|--|--|--|---|---|
| | A 会場: 1階大講義室(101 教室) | B 会場: 1階大阪外国語大学記念ホール | C 会場: 5階 501 教室 | D 会場: 6階 603 教室 | E 会場: 6階 632 教室 |
| 10:00 | 座長1 佐藤 章 | 座長2 福西 隆弘 | 座長3 椎野 若菜 | 座長4 小松 かおり | 座長5 米田 信子 |
| 10:00 | A-1:平野雄太(京都大学) 複数政党制再導入後のケニアにおける <i>majimboism</i> をめぐる議論—William ole Ntimama の政治思想を中心に— | B-1:宮内洋平(立教大学) JICA のアフリカにおける都市マスタープランづくり | C-1:神代ちひろ(東京外国語大学) マイクロファイナンスがつくる社会関係—南アフリカの事例から— | D-1:下山 花(長崎大学) ガーナ北部サバンナ地域におけるヤムイモの栽培と拡大するキャッサバ栽培の実態 | E-1:松岡秀哉(大阪大学) ハウサランド以西のハウサ語世界 |
| 10:15 | A-2:味志 優(東京大学大学院) 新家産制概念をめぐる近年の論争の展開と今後の課題 | B-2:板久梓織(東京都立大学) それでも、取引をつづけていく—ケニアのソープストーン彫刻産業における買い手と売り手のやりとりから | C-2:青池歌子(総合地球環境学研究所) ニジェール国ニアメ市における生活ゴミの利用と廃棄の実態 | D-2:伊藤紀子(拓殖大学) ほか ケニアにおける持続的食料消費と農業生産:全国調査の分析 | E-2:若狭基道(跡見学園女子大学) あるオムト語の受身接尾辞のアクセント |
| 10:30 | A-3:細井友裕(東京大学) ロシアは中央アフリカに利益をもたらしたのか? | B-3:高村伸吾(立命館大学) コンゴ民主共和国チョボ州における水上流通技術の革新と普及 | C-3:湖中真哉(静岡県立大学) 遊牧社会の土地細分化で取り残されたのは誰か?—ケニア中北部サンプル社会の事例 | D-3:魚住耕司(京都大学) カメルーンにおけるキャッサバの在来品種と改良品種のイモの販売 | E-3:杓掛沙弥香(東北学院大学) アフリカ型多言語主義に関する予備的考察:「人間経済」との接点を探る |
| 10:45 | A-4:一柳智子(立命館大学) ケニア農村地域社会における社会的企業の持続可能性の検討 | B-4:清水大地(筑波大学) 開発のポリティックス:マラウイにおける社会的保護から | C-4:山崎暢子(京都大学) 紛争と出稼ぎ:ウガンダ北部からの報告 | D-4:桐越仁美(国土館大学) ガーナ中部テチマン近郊における農地の変容 | フォーラム①「カラハリ狩猟採集民の言語への正書法導入:母語話者との共同による実践」 E-4:中川 裕(東京外国語大学)・大野仁美(麗澤大学) ほか グイ・ガナ正書法の遠隔訓練 |
| 11:00 | A-5:小宮理奈(東京都立大学大学院) 難民経験の連続性:タンザニアからアメリカに再定住したコンゴ難民3人に着目して | B-5:佐藤千鶴子(アジア経済研究所) マラウイ人元鉱山労働者の社会的保護をめぐる課題 | C-5:駒澤牧子(JICA 緒方貞子平和開発研究所) モバイルマネーショップは10代の若者の避妊推進チャネルとなり得るか?—ウガンダにおける形成研究報告 | D-5:水野一晴(京都大学) アフリカ熱帯高山の温暖化による氷河消滅と生態系の危機 | E-5:加藤幹治(ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター)・木村公彦(東京海洋大学) スマートフォンによるグイ語・ガナ語正書法入力への導入:キーボードアプリの開発と綴り方ワークショップ |
| 11:15 | 座長交替時間 (5分間) | | | | |
| 11:20 | 座長6 網中 昭世 | 座長7 津田 みわ | 座長8 田原 範子 | 座長9 鶴田 格 | 座長10 亀井 伸孝 |
| 11:20 | A-6:石村 智(東京文化財研究所)・清水信宏(北海学園大学) ほか 国内所蔵のスーダン関連資料について | B-6:内藤直樹(徳島大学) サハラ以南アフリカにおけるエネルギー転換の景観人類学—ケニアの再生可能エネルギー開発が牧畜社会に与える影響 | C-6:大谷琢磨(京都大学) ウガンダ都市部におけるバイクタクシーが提供する輸送サービスの多様性に関する研究 | D-6:福田聖子(日本大学) マラウイ高地における温帯果樹栽培の導入と歴史的背景 | E-6:木村香純(京都大学大学院) ケニアにおける聖書の歴史:「聖書講読キャンペーン」と「聖書贈呈式」を手がかりに |
| 11:35 | A-7:矢澤達宏(上智大学) 1910~30年代ポルトガルにおけるアフリカ人新聞の内容分析—萌芽期アフリカ・ナショナリズムを再考する | B-7:楠 和樹(東京大学) 開発の担い手としての教会—独立後のケニア南部における聖公会の活動 | C-7:森口 岳(東洋大学) 「家族の政治学」(2) ウガンダ、カンパラにおけるある一家の土地係争を事例として | D-7:足達太郎・ファビアン アクルガダレアベリンガ(東京農業大学) 侵略的外来種はアフリカの食料生産にとって脅威なのか?—サブサハラ・アフリカのトウモロコシ畑における侵入害虫の定着状況と生産阻害要因としての優先度 | E-7:阿久津昌三(信州大学) サイディア・ハートマンの『母を失うこと—大西洋奴隷交易をたどる旅』を読む |

日本アフリカ学会第 61 回学術大会プログラム(第 1 日目:2024 年 5 月 18 日) ②

| | A 会場: 1 階大講義室(101 教室) | B 会場: 1 階大阪外国語大学記念ホール | C 会場: 5 階 501 教室 | D 会場: 6 階 603 教室 | E 会場: 6 階 632 教室 |
|-------|--|--|--|--|--|
| 11:50 | A-8:松井 梓(人間文化研究機構) モザンビーク島の金細工職人の歴史を追う—インド・ポルトガルとの関わりから | B-8:孫 暁剛(静岡県立大学) ケニア山西麓におけるウシ飼養の現代的意義 | C-8:相原 進(京都大学) エチオピアのプロダンサーたちはコロナ禍と内戦を乗り越えたのか?—ダンサーたちの雇用環境とパフォーマンスに着目して— | D-8:大山修一(総合地球環境学研究所)・塩谷暁代(京都大学) ジブチとニアメにおける下水汚泥の特性とその農業利用—総合地球環境学研究所「都市と農村の有機物循環プロジェクト」の開始— | E-8:村田はるせ(アフリカ学会員) 子ども兵士を描く児童文学—『子ども兵士の帰郷』が喚起する議論— |
| 12:05 | A-9:畔柳 理(京都大学大学院) モザンビーク小規模・零細製造業の生産と技術—マトラ市の金属加工業を事例に— | B-9:中垣太樹(京都大学) ウガンダ・カンパラ大都市圏外縁部における居住地移動と都市空間の形成 | C-9:新川まや(京都大学大学院) カメルーン北部・ンガウンデレ周辺におけるウシの交易—取引慣行 <i>Nyamandé</i> に着目して | D-9:上村知春(立命館大学) 「インジェラ発祥の地」におけるトウモロコシ—エチオピア北西部・ゴッジャムの事例 | E-9:森尾貴広(筑波大学) 南アフリカのマンガ・アニメクリエイター並びにファンフォーラムにおけるメンバー間のコミュニケーション |
| 12:20 | A-10:田村 優(新潟大学大学院) 母系制社会における恋愛・結婚観の変容—モザンビーク・ロムウェ社会の儀礼/酒場 | B-10:中澤芽衣(摂南大学) ウガンダ南部の都市近郊農村における人口動態 | C-10:彭 宇潔(静岡大学) 集団活動時のインタラクション:カメルーン東南部の住民たちを事例に | D-10:中川千草(龍谷大学) ギニアにおける生業をめぐる選択肢1—養蜂— | E-10:谷口京子(広島大学) マラウイのコミュニティ・ベース・チャイルドケア・センターにおける教育実践 |
| 12:35 | 音楽の分析から | | | | |
| | 昼食休憩 | | | | 評議員会 |
| 13:30 | ポスター発表コアタイム ポスター会場: 4 階 ALS | | | | |
| | P-1:増田 研(長崎大学) Review of Covid-19 infection status based on press releases from the Kenyan Ministry of Health, 2020-2023 | P-2:赤岡佑治(京都大学) “Why local people hunt primates?”: Implications for mitigation of primates hunting in African rainforests | P-3:阪本公美子(宇都宮大学) ほか Nutritional Values of Wild Food in Southeast and Central Tanzania: From Field Guild to Edible Plants in Tanzania and their Nutrition | P-4:一條洋子(京都大学) Current status and issues related to the expansion of grape production and distribution in Tanzania | P-5:樺澤麻美(京都大学)・西崎伸子(芸術文化観光専門職大学) エチオピアとケニアにおける再生可能エネルギーの開発政策の動向 |
| | P-6:近藤有希子(愛媛大学) ルワンダ南西部における高人口密度型農耕の生存戦略—土地保有の実態と貸借の実践を中心に | P-7:太田 至(京都大学) 資源開発のフロンティアにおける地元の若者たちの「参入を求める闘い」—ケニア北西部トゥルカナ地域の石油開発(2010～2020年) | P-8:本田祐里香(東京外国語大学大学院) 生体認証技術を用いた市民登録制度をめぐる検討:コートジボワールの文脈から | P-9:川口博子(早稲田大学) 新たな家族の平穏を創造する若者による過去の死者への負債の放棄—ウガンダ北中部の紛争後アチョリ社会における賠償を事例に | P-10:田 暁潔(筑波大学) ケニア・マサイの子どもの体育時間とスポーツ参加—日常遊びとの関連に着目して |
| | P-11:盛 弘仁(アフリカ学会員) 80 地域・集団間世界一周:『世界の冠婚葬祭事典』(丸善、東京、2023 年)をガイド・ブックにして儀礼の条件を考える | P-12:藤本麻里子(鹿児島大学) ザンジバルにおける観光業への水産物供給構造:ウングジャ島北部地域の観光地を事例に | | | |
| 14:20 | 移動時間 | | | | |
| 14:30 | A 会場:大講義室 総会・研究奨励賞授賞式・KAAS との MOU 締結式典 | | | | |
| 16:10 | 移動時間 | | | | |

日本アフリカ学会第 61 回学術大会プログラム(第 1 日目:2024 年 5 月 18 日) ③

| | A 会場: 1 階大講義室(101 教室) | B 会場: 1 階大阪外国語大学記念ホール | C 会場: 5 階 501 教室 | D 会場: 6 階 603 教室 |
|--------------------------------------|---|--|---|--|
| 16:20 | 座長11 落合 雄彦 | 座長12 栗本 英世 | 座長13 大山 修一 | 座長14 佐藤 千鶴子 |
| 16:20 | A-11:加藤(山内)珠比(京都大学) ほか Preliminary analysis on food group intake and health of students in 2 primary schools in Morogoro region, Tanzania | B-11:Argachew Bochena (Jinka University) ほか Ensete Production and Road Accessibility in Aari Zone, Ethiopia | C-11: Regina Hoi Yee FU(専修大学) Perception of risk: Environmental change and agricultural production | D-11:Andriamanasina Rojoniaina Rasolonaivo(大阪大学大学院) Practices of global citizenship education in Madagascar: Youth's sense of belonging in times of hardship |
| 16:35 | A-12: Only Jeon (Kyonggi University) Constructing a Korea-Japan Collaborative Framework for Enhancing Health Security in Africa: Focusing on Tanzania Support for Education Development Cooperation | B-12:Kassahun Yemane (Jinka University) ほか Rural Road Development and Community Participation in Aari Zone, Ethiopia | C-12: Kim Yoowon (Dongguk University) Kenya's Role in Global Climate Politics: A Focus on William Ruto's Leadership | D-12:Fanantenana Rianasoa Andriariniaina(大阪大学大学院) Exploring the Pathway from Education to Decent Employment in Madagascar: A Study of High School Students' and Parents' Aspirations |
| 16:50 | A-13:米川正子(神戸女学院大学) From 1994 Genocide in Rwanda to the 1996-97 Genocide in the Congo: Rethinking the Objective of the Atrocities | B-13:日達真美(長崎大学) ほか Household factors associated with food security: A cross-sectional study in Diourbel region, Senegal | C-13:若月利之(島根大学) ほか Kebbi State, Nigeria, is leading the way in African-style sawah (Suiden) rice cultivation to avoid flood risk, contribute global warming prevention and the SDGs | D-13:Jeong Kyung Park (Hankuk University of Foreign Studies) African Languages Teaching in South Korea: focus on the Act on the Promotion of Education of Critical Foreign Languages |
| 17:05 | A-14: KIM Suweon (Hankuk University of Foreign Studies) The potential for Korea-Japan collaboration in Africa: The Indo-Pacific Strategies | B-14: Wang Sun Ae (Sangmyung University) A Study on the Impact of the COVID-19 Pandemic on Adolescent Girls in Southeast Africa: Focusing on Ethiopia, Kenya, and Mozambique | C-14: Laban Kithinji KINYUA(上智大学) Belonging Beyond Borders: Support Networks and Integration for African Immigrants in Japan | D-14:上林朋広(甲南大学) Black Voice, White Letters: Examining the Publication History of <i>Zulu Woman: The Life Story of Christina Sibiya</i> |
| 17:20 | A-15:牧野久美子(アジア経済研究所) Japan's Policy Towards South Africa in the Late 1980s: How the Additional Sanctions Were Introduced | B-15:鶴田 綾(中京大学) Revisiting Rwandan Refugees in the 1960s: Refugee Settlements and Local Politics in Eastern Congo | | |
| 17:35 | | | | |
| 移動時間 (箕面キャンパス → 横断歩道 → 北側の COM3 号館へ) | | | | |
| 18:00 | 懇親会:COM3 号館 7 階会場 | | | |
| 20:00 | | | | |

日本アフリカ学会第61回学術大会プログラム(第2日目:2024年5月19日)④

| | A会場:1階大講義室(101教室) | B会場:1階大阪外国語大学記念ホール | C会場:5階501教室 | D会場:6階603教室 | E会場:6階632教室 |
|-------|--|--|---|--|---|
| 9:00 | 受付(大阪大学箕面キャンパス3階南側エントランス) | | | | |
| | 座長15 戸田 真紀子 | 座長16 佐川 徹 | 座長17 中川 千草 | 座長18 山越 言 | 座長19 有井 晴香 |
| 9:30 | A-16: 甲斐田きよみ(文京学院大学) ナイジェリア農民のリスク認識と対応〜ジェンダー視点からの一考察〜 | B-16: 三津島一樹(京都大学大学院) 部品不足から生まれた技術:ガーナ都市部の自動車修理業における「オルタレーション」の事例から | C-16: 田中綾華(京都大学) エチオピア西南部アリにおける気鳴楽器の習得と継承について | D-16: 丸山優樹(農林水産省) ほか アフリカ地域における食意識と食環境の関係性評価:ケニアとセネガルの比較 | E-16: 小川未空(大阪大学) ケニアにおける学校権力への抵抗—生徒による中等学校への放火事件を事例に— |
| 9:45 | A-17: 澤田 望(駒澤大学) 初期ナイジェリア新聞における感情分析の試み | B-17: 牛久晴香(北海学園大学) 「大衆による生産」におけるイノベーションの普及—ガーナ北東部の輸出用手工芸品産地を事例に— | C-17: 菅野 淑(愛知淑徳大学) 日本人のアフリカダンス習得過程におけるリズム認識と身体性—セネガルのサバールダンスを事例として— | D-17: 安高雄治(関西学院大学) 半乾燥地の農牧民における体重変動とフードセキュリティ—マダガスカル南西部の事例から— | E-17: 野口朋恵(京都大学大学院) グイ/ガナ定住地におけるノンフォーマル教育の実態—子どもをめぐる相互行為の観点から— |
| 10:00 | A-18: 玉井 隆(東京女子大学) 治安機関による市民への暴力—ナイジェリア警察の歴史的変遷からの検討— | B-18: 渡邊麻友(京都大学大学院) ナミビア北中部におけるオヴァンボ女性のライフコース—ジェンダー観の変容に着目して— | C-18: 鈴木裕之(国士館大学) マンデ・ポップスにおける共同性と個性の関係:モリ・カンテとサリフ・ケイタの場合 | D-18: 足立 基(聖マリア病院) アフリカ農村部における住民主導のクッキングデモンストレーション | E-18: 小山祐実(京都大学大学院) 狩猟採集民バカの家庭における夫婦の時間と空間の共有 |
| 10:15 | A-19: 島田周平(京都大学) ティズブ大統領の1年—ナイジェリア新政権の取り組みと直面する課題 | B-19: 仲尾友貴恵(国立民族学博物館) 進行中の人生を聴く、書く:9年越しのダルエスサラームで出会った変化の事例から | C-19: 小林直明(国立民族学博物館) 民博・X-DiPLAS プロジェクトのデータベース写真(エチオピア、ザイール)を使ったデジタルストーリーテリングの試み | D-19: 大石高典(東京外国語大学)・ベルナル・A・ビトゥガ(ドウアラ大学) アフリカ熱帯林の狩猟採集社会における喫煙文化の多様性—バカ、バコラ/バギエリ、アカの比較から | E-19: 山本始乃(京都大学大学院) ナミビア北西部ヒンバにおける親子関係—子どもの暮らしの民族誌に向けて |
| 10:30 | 座長交替時間(5分間) | | | | |
| 10:35 | フォーラム②「研究と実践の融合によるアフリカ地域研究の新機軸の開拓—20年のNPO活動における試行錯誤を通じて」 A-20: 岩井雪乃(早稲田大学) 住民に寄り添う実践と学術研究の葛藤:アフリカゾウ獣害対策プロジェクト A-21: 松浦直毅(相山女学園大学) 地域開発プロジェクトにおける研究と実践の融合:DRCにおける水上輸送プロジェクトの事例から A-22: 丸山淳子(津田塾大学) ほか アフリカに学ぶ・アフリカを教える:NPO活動・大学教育・研究の融合とジレンマ A-23: 井上真悠子(NPO 法人アフリック・アフリカ) 「つくり手」の社会に目を向ける—タンザニアの絵画・ティンガティンガ体験イベントをつうじて | フォーラム③「サハラ以南アフリカの女性と少女のサニテーション:カメルーン、マラウイ、ザンビアの月経保健衛生(Menstrual Health and Hygiene)」 B-20: 山内太郎(北海道大学) サハラ以南アフリカの女性と少女の月経保健衛生 B-21: 佐井 旭(北海道大学) 先住民の月経保健衛生—文献レビューおよびカメルーンの狩猟採集民 Baka の事例から B-22: 満永有美(北海道大学) マラウイ共和国ロングウェ県における思春期女子の月経衛生対処 B-23: シロポ・ニャンベ(北海道大学) Navigating Menstrual Health and Hygiene (MHH) in Peri-Urban Lusaka, Zambia: Unveiling Perspectives from Adolescent Schoolgirls and Traditional MHH Teachers | フォーラム④「映像フォーラム: シングルショットという探究」 C-20: ふくだぺろ(立命館大学) シングルショットまたはポリフォニーする中動的模索 C-21: 座馬耕一郎(長野県看護大学) 野生チンパンジーのシングルショット映像 C-22: 川瀬 慈(国立民族学博物館) 映画『吟遊詩人—声の饗宴—』 C-23: 高田 明(京都大学) シングルショット動画の可能性:相互行為分析の視点から | 座長20 上野 庸平 | 座長21 池野 旬 |
| 10:50 | | | | D-20: 飛内悠子(盛岡大学) 「選ばれた福音覚醒者」の活動から見る東アフリカ信仰覚醒運動の現在 | E-20: 上田 元(一橋大学) ほか タンザニア・ンジョンベ州マケテ県における改良小麦品種普及政策と小農の対応 |
| 11:05 | | | | D-21: 池邊智基(東京大学) セネガルにおける近年のイスラーム出版の動向:ムリッド教団での作家団体設立を事例に | E-21: 溝内克之(アフリカ学会員) 「スマート・ヴィレッジ」を創造する(1):タンザニア・カラトゥ県における日系企業による投資事業の民族誌的研究 |
| 11:20 | | | | D-22: 内山智絵(上智大学) イスラーム教育を通じて結びつくサラフィーとスーフィー:セネガルのサラフィー系イスラーム教育機関の事例から | E-22: 伊谷樹一(京都大学) ほか タンザニア農村における水力発電の取り組みとグリッドのひろがり(1) グリッド(送配電系統)の導入からみえてきたこと |
| | | | | D-23: 平山草太(東京大学) モスクの増加と「ムスリム街区」の分断—カメルーン・ヤウンデの事例 | E-23: 黒崎龍悟(高崎経済大学) タンザニア農村における水力発電の取り組みとグリッドのひろがり(2) 電源選択の諸相 |

日本アフリカ学会第 61 回学術大会プログラム(第 2 日目:2024 年 5 月 19 日) ⑤

| | A 会場: 1 階大講義室(101 教室) | B 会場: 1 階大阪外国語大学記念ホール | C 会場: 5 階 501 教室 | D 会場: 6 階 603 教室 | E 会場: 6 階 632 教室 |
|-------|---|--|------------------|---|--|
| 11:35 | | フォーラム③ B-24:古澤輝由(立教大学) WASH における意識変容・行動変容～サイ エンスコミュニケーションの視点から～ | | D-24:榎並ゆかり(龍谷大学) ポストコロナ時代のアフリカ・アジア間交易 の動向—広州のムリッドはなぜ・どこへ行っ てしまったのか | E-24:荒木美奈子(お茶の水女子大学) タンザニア農村における水力発電の取り組 みとグリッドのひろがり(3)「共の電気」をめ ぐる諸課題 |
| 11:50 | 昼食休憩 | | | | アフリカ学会第 61 回大会実行委員会×FENICS 共催サロン:フィールドワーカーのライフイベント |
| 13:00 | A 会場: 1階大講義室 公開シンポジウム 「世界観を拓げるアフリカ史 ～ アプローチを変えると見えない(歴史)世界が見えてくる ～ 」 | | | | |
| 14:40 | 趣旨説明: 溝辺泰雄(明治大学) 報告①: 石川博樹(東京外国語大学) 「一皿の料理からみるアフリカ史:エチオピアのインジェラをめぐる歴史研究の事例から」 報告②: 米田信子(大阪大学) 「比較言語学からみるアフリカ史:言語学が歴史研究にできること」 報告③: 網中昭世(アジア経済研究所) 「坑夫の語りからみるアフリカ史:地域研究・国際関係論的アプローチ」 報告④: 杉山祐子(弘前大学) 「移動の語りからみるアフリカ史:ベンバの人びとが語る移動の歴史とその多声性」 報告⑤: 溝辺泰雄(明治大学) 「日本語史料からみるアフリカ史:アフリカの脱植民地化期におけるアフリカと日本の交流と連帯」 | | | | |